



モールの安全管理

不断の安全追求から生まれる安心の獲得

私たちは関わりのあるすべての人たちに対して、さまざまな安全を提供し、どんなときも安心の評価をいただけるまちづくりを推進します。

多角的なモール強化の取り組み

2015年3月15日、当社は「第1回ジャパン・レジリエンス・アワード2015」において、一般社団法人レジリエンスジャパン協議会*より優秀賞に選出されました。全国各地で展開されている強靱化に関する先進的な活動を表彰するもので、強くしてしなやかな国づくり、地域づくり、人づくり、産業づくりに関わる企業・団体から選出されたものです。当社は、次世代対応型「防災対応型スマートイオン」を、環境への配慮だけでなく、エネルギーの効率的な利用や防災対応など、より

便利で安全な次世代の店舗づくりを進めています。平時のエネルギー有効活用はもちろん、有事に地域の防災拠点の役割を担うと同時にライフラインの役割を維持できるよう、耐震性や復興拠点としての機能を中心に強化を進めています。



*「国土強靱化基本計画」が円滑に達成されるよう、産、学、官、民のオールジャンルでその叡智を結集し、非常時のみならず平時での戦略的活用の方策を創造することにより、公共投資、民間投資が最大限に相乗効果を発揮し、レジリエンス立国を構築していくことを目的として設立されました。

●評価された複合的な取り組みの概要

1	非常用電源の確保	耐震性の高い中圧ガス管からガス供給されるエネルギー効率の高いコジェネの採用
2	飲料水の確保	受水槽の耐震・耐久化、仮設給水口設置による受水槽水利用
3	耐震性の強化	天井を膜天井やスケルトン化することによる落下物の軽減、設備機器などの耐震性能強化
4	包括的連携協定・防災協定	全国1道2府41県と10の政令都市を含む、約600の自治体と協定を締結
5	自衛隊との物資協定	陸上自衛隊と災害時における物資の供給要請に関する協定を締結
6	NHKやFM東京との防災連携	防災連携に関する協定などの締結
7	防災訓練	グループ総合地震防災訓練を年2回実施。各モール単位でも防災訓練を定期的に実施
8	植樹活動	店舗のまわりを「イオン ふるさとの森」で囲うことで、有事の際は延焼を防ぐ防火壁、津波の威力を軽減させる防潮堤として機能
9	BCMS	経産省事業継続マネジメントシステム(BCMS)のモデル事業に参加

進化するユニバーサルデザイン

「第8回国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰」を受賞

2005年から他の商業施設に先駆けて本格的なユニバーサルデザインを導入した当社は、「イオンモール・ユニバーサルデザイン・ガイドライン」を独自に作成し、各モールに展開しています。定期的にアンケートを実施して新規のモールに反映するなど、継続的な取り組みが評価されて表彰されました。これからもハンディキャップをお持ちの方、妊娠されている方、外国人の方など、ご来店されるすべてのお客さまに安心して快適にお過ごしいただけるよう努めてまいります。



テーマが異なる4つのモールで構成されるイオンモール幕張新都心では、棟別に定めたカラーでサインを統一。エレベーター内には通常より大きなボタンを採用しています。



どこからでも話しかけやすいインフォメーションカウンター。タッチパネル式の館内案内やデジタルサイネージも館内各所に設置しています。



館内には車椅子やベビーカーを配備しています。また、介助が必要なお客さまのために、モール中央入口にインターフォンを設置しています。



広く多機能な「優先トイレ」、お子さま専用設計された「キッズトイレ」、オストメイト対応トイレなどが揃っています。



お体の不自由な方専用駐車場は登録制とし、必要とされる方が確実に利用できる環境を整えています。



イオンモール京都桂川

防災協定の締結

国内のモールの大半が、防災活動への協力などに関する協定書を地方行政と締結しています。2014年にオープンしたイオンモール名古屋茶屋では主要設備を津波の想定水位より高い位置に設置し、2階より上階に約31,000人が一時避難可能なスペースを確保。名古屋市より「津波避難ビル」の指定を受けています。



イオンモール名古屋茶屋

防災訓練

万一の災害時にお客さまの安全を確保するために、専門店のスタッフも参加して避難誘導や消火活動などの防災訓練を定期的に行っています。モールによっては飲料水、簡易トイレ、緊急避難用の大型テント「バルーンシェルト」などを備え、迅速に地域の防災拠点として機能します。



バルーンシェルト

耐震性能の強化

東日本大震災後にオープンしたモールでは、天井の主要箇所において耐震性能をより高めた工法を採用し、メイン通路の天井を膜天井やスケルトン化しています。受水槽も東日本大震災と同規模の地震を想定した耐震性・耐久性を備えています。



被災時の復興拠点としての機能確保

モールによっては大規模な停電が発生した際にガスインフラを利用した自家発電設備を稼働し、セキュリティシステムや主要な管理諸室へ電源供給を行います。また受水槽に非常用の仮設給水口を取り付けたモールでは、断水・停電時にも数百トン単位の飲料水を供給することが可能です。

